

は じ め に

京都市では、教職員の熱意あふれる教育実践のもと、「大胆に変革し、頑固に守る」姿勢を堅持して、子どもたちの今と未来をみすえた、より確かな教育改革をめざして取組を進めて参りました。そのひとつとして、本センター研究課では、「今を生き、次代を拓く力の育成」という本市教育の最高目標のもと、重点課題に即した7項目について、この一年間、研究を積み重ねて参りました。ここに、確かな教育の営みを創造するために実施した調査の結果や、今後の教育課題に応えるために開発し実践した先行的な実践授業の成果などをまとめ、刊行することとなりました。

校種間の連携を目指した研究では、小・中連携教育が提唱されるなか、「学習目標の一貫性」「学習内容の系統性」「学習指導の継続性」「子ども理解の一貫性」を視野にいれ、特に「指導上の留意点でつなぐこと」を大切にして国語教育、算数・数学教育の研究を進めました。また、保・幼、小の現場での観察や聴き取り調査をもとに、就学前教育と学校教育とのなめらかな接続をめざした研究を進めました。いずれの研究も、子どもたちの実態から、つまずきやすい箇所や課題となる箇所を考え、それに対する具体的な支援を進めることが、なめらかな接続と確かな学力を育むことにつながることを提案したものです。

実態調査を通じた研究では、子どもや保護者の実態を明らかにするとともに、課題と今後の方向性を示唆する研究を進めることができました。これからのキャリア教育推進にむけた意識調査、児童のスポーツ活動の推進を目指した意識調査からは、児童生徒の意識と指導者との意識のずれや、社会や生き方に対する意識、スポーツ活動そのものに対する意識の実態を明らかにしています。また、学力定着調査と生活意識調査の分析からは、学力と生活意識との関連を探り、課題や授業改善にむけた視点を示唆しています。

授業力向上にむけた効果的な研修を目指した研究では、教員自らが「授業力」を高めるために活用できる「机間指導」をテーマにした研修用コンテンツの開発を進めることができました。

7編の研究は、まず、児童生徒・保護者・指導者の実態を大切にし、課題を明らかにするとともに具体的な指導・支援ができることを目指した研究です。また、いずれの研究も、関係各課との密接な連携のもと、求められている喫緊の教育課題に取り組んだもので、各学校での教育計画作成のための基礎資料として、あるいは教育活動を進める上での実践事例として、生かしていただけるものと思っております。

本市教育は、常に目の前の子どもたちの実態から出発し、子どもたちの豊かな学びと育ちを支える実践を追求して参りました。本研究紀要が「一人一人の子どもたちを徹底的に大切にする」という本市教育の伝統を継承・発展させ、日々、確かな教育の営みに精励されている先生方のお取組の参考に供するところが少しでもあればと願いますとともに、忌憚のないご意見をお寄せいただきたく存じます。

最後になりましたが、各研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力員及び研究協力校の先生方、並びに関係者の方々に、心から御礼申し上げます。

平成18年3月

京都市総合教育センター
所長 梶村 健二